

他プラントの原子炉建屋の耐震安全性評価における
地震応答解析モデルの設定誤りを踏まえた対応について

当社は、平成23年8月11日付け、原子力安全・保安院からの「東京電力株式会社福島第二原子力発電所第2号機の原子炉建屋の耐震安全性評価における地震応答解析モデルの設定の誤りを踏まえた対応について」の指示^(*)に基づき、当社発電所の耐震安全性評価における東京電力株式会社が解析を委託した会社と同じ会社にて解析を実施した東海第二発電所および敦賀発電所1号機について、耐震安全性評価に用いた地震応答解析モデルの設定の確認結果を、本日、原子力安全・保安院へ報告しました。

【報告概要】

(1) 確認方法

耐震安全性評価における地震応答解析モデルにおいて、節点の結合に多点間拘束（主従モデル）^(**)を用いているか、且つ、多点間拘束の節点に外力を直接入力しているかを調査し、解析モデルの設定に誤りがないかを確認しました。

(2) 確認結果

①東海第二発電所

水平方向及び鉛直方向の解析モデルは、節点の結合に多点間拘束を用いているが、当該節点に外力を直接入力しておらず、同様の誤りが発生しないことを確認しました。

②敦賀発電所1号機

水平方向の解析モデルは、多点間拘束を設定している節点に外力を直接入力しているが、多点間拘束の設定が正しくされていることを確認しました。また、鉛直方向の解析モデルは、節点の結合に多点間拘束を用いているが、当該節点に外力を直接入力しておらず、同様の誤りが発生しないことを確認しました。

* 1 「東京電力株式会社福島第二原子力発電所第2号機の原子炉建屋の耐震安全性評価における地震応答解析モデルの設定の誤りを踏まえた対応について（指示）
（平成23-08-11原院第1号）」

* 2 多点間拘束（主従モデル）：二つの節点を結合する際に、主とする節点と同じ動きをさせる節点を従として、モデル化する方法

添付資料：地震応答解析モデル概念図

以上

地震応答解析モデル概念図

